

平成29年度大洲市がんばるひと応援事業の実績について

(単位:円)

整理番号	事業名	団体名	年数	事業概要	交付決定額	実績額	事業の実績	事業の効果	今後の取組方針
1	大洲エビネの地域ブランド化推進事業(魅力ある地域づくり推進事業)	大洲農業高等学校(生産科学科)	継続(5年目)	地元大洲の特産品である大洲エビネの現況は、一部の愛好家の中では全国的なブランド力を持っているが、地域住民はもちろん、一般的には知名度が低い。また、愛好家たちの高齢化が深刻化しており、栽培技術や文化の継承が難しくなっており、自生地の環境破壊や乱獲のため絶滅危惧種に指定されている。そのため、関係機関と連携し、新品種の作出、後継者育成、エビネ自生地の再生活動に取り組み、地元大洲の魅力在全国に発信し知名度の向上を図る。	360,000	360,000	大洲の特産であるエビネにかかわる文化を積極的に活用し、全国はもちろん世界へ大洲エビネをPRする。(継続実施) 大洲エビネ会などの関係機関と連携し、新品種の作出と後継者の育成を行い、高齢化が深刻なエビネ文化の技術継承を図る。(継続実施) エビネの倍数化技術を確立し、大洲のエビネの高品質化を図る。 ウイルス病対策としてウイルス検定を実施し、大洲のエビネの品質向上を図る。 絶滅危惧種に指定されているエビネを自生地に戻す活動を行う。	本事業の実施により、大洲エビネの認知度が向上し、全国及び世界から大洲エビネを見に、買いに、学びに訪れ地域が活性化した。また、他の地域にはない技術(倍数化技術)と付加価値(ウイルス検定による安心感)の確立により、類似地域との差別化を図り、地域ブランドを維持することができた。環境保全活動の実施により地域住民の環境保全に対する意識を向上させることができた。これらのことにより、大洲＝エビネの産地としての認識が向上し、地域住民の地元愛の向上や若年層の定着につながり、地域の発展に貢献できた。	ヨーロッパの専門業者との連携を図り、大洲エビネの海外輸出を実現し、大洲エビネはもちろん地元大洲市のPRにつなげていきたい。 大洲エビネを愛媛県の特産品に認定していただけるよう関係機関に働きかけを行う。 活動を継続し、本事業の目的を達成したい。
2	高校生による大洲の食文化の継承事業(魅力ある地域づくり推進事業)	大洲農業高等学校(食品デザイン科)	継続(5年目)	農山村部における地域の食文化は、後継者不足や高齢化により活動や技術の継承が危ぶまれており、地域に伝わる伝統食や郷土料理の食文化が廃れてきている。生活研究会との交流活動(伝統食の料理教室など)により、加工品開発の技術や料理を学び、大洲市の食文化の継承するとともに、それを基に高校生の柔軟な発想を活かした新たな加工品開発により、地域の新たな食文化の形成に取り組み、地域の活性化を図る。 引き続き、そば打ち技術の向上を図り、地域住民に伝える活動にも努める。	315,000	315,000	大洲市生活研究会、長浜豊茂自治会、肱川正山地区生産者組合と大洲市の食文化の継承に向けた技術交流会、商品開発に関する意見交換会などを実施した。 豊茂自治会とは、昨年度開発した地元産の赤シソを使ったジュレを「食べる宝石ルビージュレ」として商品化し、ポップ広告やパネルの製作を高校生が手掛け、愛たい菜や白滝の農産物直売所での販売に貢献した。また、赤シソのジュースを使ったソースを作り、チーズケーキに使用した商品開発も手掛けた。 また、生活研究会メンバーとで、出張料理人の小暮剛氏にも参加いただき、5品の伝統食の作り方を高校生が学んだ。 正山地区においては、地域でそばを打ちたいという方を対象にそば打ちの指導を行った。また、全麵協の講師からそば打ち指導をしていただき技術向上を図った。 このほか、そば打ち交流会を市内の老人福祉施設で行った。	高校生の若い発想力による地域特産品を使った新たな加工品開発の取り組みは、地域の活性化につながる活動である。豊茂自治会と協力して開発した赤シソのジュレは「食べる宝石ルビージュレ」という商品名でラジオなどを通じて高校生がPRすることで愛たい菜での販売促進につながった。 また、そば文化を継承し広める活動では、地区住民が参加したのそば打ち勉強会を開き、地域の文化祭でそばを振る舞うなどの活動へと発展した。 大洲地域の食材を使った郷土料理づくり講習会は、生活研究会に協力していただき、郷土料理の作り方を高校生が学ぶことにより地域に残る食文化の継承につながっている。	地域と連携して新たな加工品の開発を行い、大洲農業高校が地域の6次産業化に向けたセンター的役割を果たすことができるようにしたい。 大洲の伝統的食文化を観光客向けにPRする活動に力を入れたい。 地域と連携し、高校生による郷土料理を提供できるレストラン構想を検討していきたい。
3	草花の活用と大洲菊文化の継承による地域貢献事業	大洲農業高等学校(生産科学科)	新規	大洲農高には、地域から農業振興に対する大きな期待が寄せられており、知識や技術を地域に還元していくため、フラワーデザインに関する新しい技術、多肉植物と菊の栽培技術を向上させ、地域住民を対象とした講習会を開催していく。 また、高齢化が深刻な菊花の関連団体から高い技術を継承し、大洲市の菊文化を守っていく。 小・中学生を対象とした満足度の高い交流学習を継続的に実施できる体制を整えることにより、「大洲農業で草花を勉強したい」という意識付けにつなげ、地域住民からの大洲農高の存在意義を高めていく。	315,000	315,000	外部講師によるフラワー装飾技術講習の実施及び各種競技への参加 大洲市菊花協会と継続的な交流を持ち、大洲市菊花展の活性化を図る。 多肉植物業者や愛好家と交流を持ち、栽培や寄せ植えの技術を習得する。 近隣の中学生を対象とした講習会を開講し、草花の魅力を広く発信する。	フラワー装飾は、継続的な技術講習により、生徒の技術向上や競技会での入賞を果たすことができた。また、HPやSNSでの積極的な発信により、「講習会の実施はできないか」との問い合わせも多くなった。 菊文化の継承では、大洲市菊花協会との積極的な交流により、生徒たちは大洲の菊文化について学ぶことができ、また、協会及び菊花展の活性化に貢献することができた。菊花展開催中は大洲市長にも会場へ足を運んでいただいた。 多肉植物では、専門業者や愛好家との交流を通して、栽培や寄せ植え技術を向上させることができ、栽培規模を拡大させることで本校農場へ来訪される市民の方も増加した。 地域との交流としては、中学生は草花の多様な活用方法に興味を抱き、草花を勉強することを志し本校へ入学する生徒も増加した。	本校生徒においては技術やコミュニケーション能力の向上が顕著に表れ、その教育的効果は高い。次年度は資格取得にも挑戦し、卒業後の進路にもつなげていきたい。 地域住民、中学生においては、草花部門の活動を知り学校への問い合わせや農場への来校者も増加した。特に菊花協会は高齢化が深刻化する中で、高校生世代との交流は刺激にもなり、菊花展の活性化に大きく貢献することができた。 本事業の最終目的は、講習会や菊花展等の交流活動を通して本校の存在意義を向上させることである。次年度は技術をさらに広く地域へと還元するため、積極的に交流の機会を持ち、本事業による活動を積極的に発信していきたい。
4	戒川地区榎谷の棚田保全事業	榎谷棚田保存会	継続(4年目)	棚田啓発事業として、田植え祭、収穫祭などのイベントを継続するとともに、棚田の特徴や歴史、周辺の見所などを紹介することで、地域の魅力を効果的に伝える。 また、棚田のオーナー獲得を図るためのPRツールの作成や説明会の開催など、棚田オーナー制度のPR活動を推進する。 今年度から棚田トラスト制度を検証し、都市部との交流による地元農業の活性化を進める。今年度からは、地域おこし協力隊が本格的に配置されたため、協力隊員の定住化と会の自立とを一体のものとして位置付けて取り組む。	287,000	287,000	棚田来訪者、棚田オーナーは増加しているが、今後の持続的な活動に向けて、制度の見直しを図った。オーナー会でのヒアリング、ほかの棚田保存会の活動の視察調査を実施し、改革の方向性を検討した。 平成29年度は、棚田トラスト制度を新たに導入し、松山においてオーナー募集説明会を実施した。 イベント用でポータブル拡声器、テントを整備した。	備品の購入により、イベントの機動的準備・開催や会の認知度向上に役立った。 静岡県石部棚田の視察を実施し、オーナー会での意見交換を踏まえ、オーナー制度改革案を具体化し次年度以降の募集に繋げることができた。 昨年に続いて、棚田オーナー募集説明会を松山市で開催。昨年に倍する参加者(46名)があり、棚田保全への関心の高さを実感した。	地元耕作者への働きかけをさらに強め、オーナー田を拡大することでオーナー制度のさらなる拡大をすすめる。 戒川・白滝・長浜地区との連携を意識し、棚田オーナーのグリーンツーリズムへの誘導を考える。
5	肱川あらし予報事業	肱川あらし予報会	継続(4年目)	「肱川あらし」の予報をHPで情報発信するとともに、ポスターを作成し、市内外に配布することでPRに努めながら、前日予報に加え週間予報の整備に取り組む。 また、前年度に引き続き霧を観光資源として活用している先進地視察を行い、効果的なPR方法や観光資源化の方法を検討する。 肱川あらしを漁船から見る体験を希望する登録者などを中心に、体験ツアー・赤橋自由空間・長浜水族館と連携し「肱川あらしファン」を大切に大きくしていくための「集い(オフ会)」を開催する。	1,743,000	1,743,000	予報業務(10月から2月の間)を実施した。(151日間) PR活動事業として、ポスター(600部)・タンブラー(180個)を作成し、配布等を行い、HPにおいて「嵐ガール」の出演による予報PR等を行った。 また、先進地視察では鹿児島県の薩摩川内市を訪問し、大歓迎を受け、地元テレビ局や新聞等でも掲載された。 さらに、肱川あらしのファンづくりのひとつとして、地域映画の発表も兼ねて「集い」を3/17に開催した。 また、事業経費にはないが、地域CMづくりにも取り組み、見事「大賞」となり、今後1年間テレビCMで200回以上の放送があることとなった。	鹿児島県の薩摩川内市では、地元NHKの放送や地元新聞の掲載など、PR活動としては、大きな効果がある。(仮に、テレビでのCM放送や新聞への広告掲載に置き換える数百万円の効果である) 県内の新聞各社やNHKを始めとしてテレビ放送局での番組取材などでのPR効果への貢献度も大きい。 また、テレビ番組の中では、予報会員だけでなく、地域住民への取材も数多くあり、住民の迷惑ものであった「肱川あらし」が少しずつ地域の宝のものに変化していくものと考えている。 HPも工夫した情報発信を行い、アクセス数も1万回を超えている。(期間中のみのカウント)	目標 「肱川あらしを世界遺産(自然遺産)」 このように設定しており、日本三大あらしとして、「鹿児島県薩摩川内市」「兵庫県豊岡市」と一緒に活動をしていくことで、地域一体となった波を起こしていくこととしたい。

平成29年度大洲市がんばるひと応援事業の実績について

(単位:円)

整理番号	事業名	団体名	年数	事業概要	交付決定額	実績額	事業の実績	事業の効果	今後の取組方針
6	銀河鉄道999でまちおこし事業	新谷一万石まちおこしの会	継続 (4年目)	平成26年度より内容を拡充しながら事業を継続実施したことにより、松本先生と新谷のつながりがより強固なものとなったことや、マスコミにも数多く取り上げられ認知度が向上したことで、新谷地区においても、まちおこしの気運は高まっている。 この気運をさらに高めるためにも、今年度も引き続き、イラスト審査会や路上長テーブル食事会を中心にイベントを開催し更なる活性化につなげる。 また経常的なPRのため、モニュメントを整備する。	2,000,000	2,000,000	地域活性化のため、漫画家松本零士先生の作品を活用し、各種イベント開催や観光の基盤整備を継続して行ってきたことで、松本零士先生と新谷のつながりも深くなり、マスコミにも多く取り上げられるようになった。 今後も、関係性を密にするとともに、イラスト審査会や食事会を引き続き実施し、年間を通じて市内外からの集客を図るため、モニュメント設置や観光案内看板等の整備を行い、新谷にとどまらず大洲市全体のまちおこしとして発展させていく。	松本先生から「こころの古里新谷」という言葉をいただき、松本先生と新谷(大洲市)との繋がりや松本先生が新谷を愛されていることが、イベントの参加者はもちろん、取材に来られた多くのマスコミを通じて全国に発信できた。 また、当イベントを実施するにあたり、地元の商工会、老人会などの各種団体や、小・中学校、高校が一つとなって、新谷地区関係者で運営しつながりが強固になったことが、まちおこしの原点だと誰もが感じた。 イラストの募集数においては、近年減少傾向であったが、特に地元住民への募集・周知が行えたことにより、昨年度募集数50点から66点へ増加した。	初期目標である「新谷」の発信は、ある程度成果を得たと感じているが、次の目標としてはイベントの継続実施による知名度の更なる確立、集客のための観光地整備、その対応ができる組織作りが必要である。 また、それらを維持していくための(補助終了後の)財源の確立が重要である。
7	長浜町魚市場鮮魚直売事業	長浜町漁業協同組合	継続 (3年目) 終了	長浜地区は、地区人口の減少に伴う購買力の低下、就業者の長浜地区以外への就労等により地元商店街の売り上げが低下し、小売店の閉店が相次ぐなど停滞感が漂っている。 また、長浜地区を代表する基幹産業の水産業の担い手である地元漁業者においても、高齢化や後継者不足により減少しており、第1次産業としての水産業への魅力が低下している。 引き続き、長浜地区の基幹産業である水産業を再生させるため、あらせ市を実施して、地域全体の活性化に取り組む。 食品乾燥機及びフードプロセッサーを購入し加工品数を増やし、事業の安定化を確立させる。調理室内に殺菌効果のある電解水を抽出する装置を設置し、魚介類の品質向上により付加価値を高め、地域ブランド「嵐魚」及び長浜地区のイメージアップを図る。	1,937,000	1,899,000	「嵐魚」ブランドとして松山出荷を続けて2年目となり、他の同業魚と比較して2割ほどの単価の向上が見受けられた。また、愛媛県内スーパー等にも卸売られ嵐さわら及びそれに添付するロールパウチも陳列されたおり、イメージアップが図られている。 毎月第3土曜日に行っている「長浜漁師あらせ市」において、平均100～150人の来客があり、通常の対面販売のほか鮮魚が当たる抽選会や一般の人を対象としたセリ体験販売を実施し、好評を得た。	毎月第3土曜日の鮮魚直売事業「長浜漁師あらせ市」において、地域住民はもとより、他イベントとの共同開催(長高水族館開放等)の相乗効果による観光客、また新聞下り込みの効果による大洲市内からの来客、また継続して行ったことによる市外からの来客など年間1,500人ほどの来場者があった。 また、多面販売やセリ体験販売を通じて長浜で水揚げされた魚を直に見て、触れて、また食して頂いたことで、認知効果も上がったものと思われる。	平成29年度は市の補助事業が3年目を迎え、最後の年度になったが、今後は、長浜町漁協が長浜港の小型船だまりへ移転した際に整備される見込みである食堂・直売所の運営に、これまでの鮮魚直売事業の運営力を生かし、地域活性化に貢献したいと思う。 好評だったセリ体験販売にかわる新たな集客効果のある売り方を創設する。 告知するに当たり、長浜高校、商店街と更なるコラボレーションを実現する。 今後も第3土曜日に朝市を継続する。
8	大和キャンドルナイト	大和イルミネーション愛好会	継続 (3年目) 終了	山や川、田んぼや畑に囲まれたのどかな地域である大和の郷地区は、肱川治水関係で区画整備事業後、道路の幅が広がり、家と家の間隔も広がった。毎年冬になると、防犯と装飾を兼ねて、個人個人の努力によって、自宅を様々なイルミネーション等電飾を使用し、装飾された家々の光が、夜間になると静かな街並みに様々な色が暖かく照らしてくれて、光が彩りを与え、とても美しく、心癒される空間となっている。 12月当初点灯式を実施して、沿線道路にキャンドルを設置し、家々のイルミネーションも一勢に点灯させ、色々な世代の記憶に残る事業を行う。	1,503,000	1,503,000	閉校した大和小学校周辺郷地区で、個人個人、自宅をイルミネーションで装飾し、夜間を彩った。点灯日初日に昼間ミニSL体験、着火式を兼ねたイベント、大和キャンドルナイトを行うとともに、地域内の家々を、キャンドルやイルミネーションを使って繋げ、地域の連携を図るとともに、地区内外の方々とも交流を図りつつ、子ども達の郷土に対する記憶の一つになるものを行った。	参加者同士の連携、地域に関わることによって、幅広い年齢層の交流や、地域への愛情、愛着を醸成する。住民同士、力を合わせ、老若男女地域に関わりを持つことで、自分たちの地域が明るく住みよい地域になるよう、魅力ある地域づくりに効果があった。	今回を含め、過去3回とも好天に恵まれ、年々規模も広がり、評判も良くなったが、人的限界にも直面している。今後も開催できるように、これ以上の規模拡大より、現状維持ができるように必要な人材と資金を確保しながら、無駄の無い活動を目指していく。
9	HIJIKAWA芸術文化と風の博物館Award 2017	風の博物館友の会	継続 (3年目) 終了	「HIJIKAWA芸術文化と風の博物館Award2017」を開催し、交流人口の増加、市民文化の向上、誘客を図る。 参加、体験型ワークショップを開催し、作品の制作を通じて、肱川町に滞在してもらい参加者同士や地域住民との交流を図るとともに、教室を開催し、制作した作品を展示することにより、家族、友人などさらなる誘客を図る。大洲市民に本物の美術作品を観る機会を与え、芸術文化の向上に繋げていく。 特別展として、内子町在住の「山田きよ」作品展を実施し、版画の魅力配信していく。	957,000	917,000	展示型では、平成26年に「上岡美平展」を開催。会期中の入館者が761名。平成28年度は「大野捷吉展」を開催。会期中の入館者が539名。平成29年度は「山田きよ版画展」を開催。会期中の入館者が1135名。 体験型では、平成26年度は13種類の教室で56回の開催で、355名参加。平成28年度は13種類の教室で88回の開催で、290名参加。平成29年度は、13種類の教室で96回の開催で、312名の参加。	「HIJIKAWA芸術文化と風の博物館Award2017」を開催したことにより、大洲市内の小、中学校の生徒や、市内外の美術愛好家に本物の作品を直に観てもらい、美術芸術に触れてもらうことができた。 ワークショップ参加者の中から県展へ2名の方が出品された。 ワークショップや展覧会での来館者が、周辺の温浴施設や商業集積施設での購買を生み、少なからず経済効果をもたらした。	ワークショップも新しくできる教室もあれば、なくなっていく教室もある。日頃から魅力のある教室の開催を目標とし、新規のワークショップの開催に向けて、市民からの声やマーケティングを行い、より魅力あるワークショップを開催できるようにする。 また、展示型としては、大洲市民、その他多くの方に美術芸術に直接触れてもらう機会を引き続き提供していきたい。
10	地域再生によるUターン促進プロジェクト	地域再生グループ「光」	継続 (3年目) 終了	過疎化が進み地域活動が衰退しているため、引き続き、耕作放棄地を解消し生産力のある農地を再生するとともに、環境に優しい循環型農業に取り組み、付加価値のある農産物の生産活動を行うことにより、Uターン希望者の受け皿としての機能を持つ組織を確立する。 Uターン者の産品による安定的な収入確保を高め、Uターンを促進するとともに、周辺里道の管理や花木の植栽等についても引き続き実施し環境保全に努める。	2,000,000	2,000,000	耕作放棄地解消のため、草が生え、樹木が大きくなって既に荒れ果てていた農地を整備し、栗を植栽した。伐採した樹木を煙友会と協働で炭焼きを行った。 また、ボランティア事業として、河川や里道の草刈等を行い、高齢化し人手不足となり草刈りが行き届いていなかった場所の環境整備を行った。 Uターン者の受け皿として、しいたけや栗、乾タケノコの生産、販売も実施し、少しずつではあるが、自立に向けた生産力がついてきた。 ボランティア活動により地元からも理解、信頼も得られるようになってきた。	しいたけブランド(夜昼ブランド)準備 Uターン者の受け皿となるため、愛たい菜に試験出荷 ボランティア活動により、地域の環境整備が図られ安全性が保たれた。	事業拡大するにつれ、マンパワーの不足により適正規模の検討が必要と思われる。 また、ボランティアにより草刈等を行っても、それが当たり前としてみなされ、地元住民は見てもみぬふりをされる 収益性(利益)が労務に対しほとんど見込めない中で、作業に専従できないし、新規参入者もできない。 田舎では、土地への執着が強く、また土地の評価が昔のまままで現在の価格と大きなズレがあり、賃借もできにくい状況により集約化が図れない。 以上のことから、現況を維持しつつ、せめて収支バランスがとれるよう、収益も考え事業を実施していく。

平成29年度大洲市がんばるひと応援事業の実績について

(単位:円)

整理番号	事業名	団体名	年数	事業概要	交付決定額	実績額	事業の実績	事業の効果	今後の取組方針
11	野鳥による肱川町活性化2017	やませみ22	継続 (2年目)	<p>肱川地域の鹿野川ダム湖周辺は、日本でも最大規模となるオシドリの越冬地として重要野鳥生息地プログラムに選定されているほか、県レッドデータブックの絶滅危惧1類に指定されているブッポウソウの繁殖地にもなっている。</p> <p>これらの希少な鳥類の生息地は、肱川地域にとって貴重な地域資源であり、これからも生息し続けられるよう保全活動に取り組むと同時に、観察会などを通じて情報発信することで、肱川地域の認知度向上とイメージアップを図ることにより、観光客などの交流人口の増加と特産品の付加価値づくりに取り組む。</p> <p>生きものマークを作成し、保全活動と特産品を結びつけ、高付加価値化を図る。</p>	375,000	375,000	<p>オシドリ観察会には、当地の大洲市内からはもちろんのこと、松山市、伊予市、東温市、八幡浜市、内子町、西予市、宇和島市からの参加があった。情報発信を行ったことで、肱川地域の自然のすばらしさの認知度が高まった。</p> <p>肱川小学校と協働でブッポウソウの巣箱を5個作成し、巣箱かけを行った。また、ブッポウソウの子育ての様子を観察してもらった。参加してもらった生徒の皆さんに、地域の自然を守る活動を協働で行うことでそのすばらしさに気づいていただいた。</p>	<p>オシドリは、しいたけのホダ木となるコナラなどの「どんぐり」を主な食べ物としていることを観察会を通して、理解していただけるようになった。</p> <p>ブッポウソウは、子育てをコナラなどの生育する里山で行うことを肱川小学校の生徒の皆さんに、巣箱製作、巣箱かけ、子育て観察会を通じて理解していただいた。</p> <p>地域の方には希少な鳥類が生息している肱川流域を誇りに思っていたけようにした。</p> <p>地域外の方には、収穫される特産品に希少な鳥類も育てているという付加価値がついていることを普及し、リピーターになっていただき、観光客などの交流人口の増加となるよう促した。</p>	<p>ブッポウソウの巣箱設置とオシドリ観察会実施は、継続する。</p> <p>オシドリ観察会の集合場所として、「道の駅 清流の里ひじかわ」を使わせていただけるようお願いして、農産物やお土産等の購買につながるようにする。</p> <p>ブッポウソウの巣箱かけは、繁殖ペアが10つがいになるまで継続する。それまでオシドリ観察会(エコツアー)を施行して、リピーターが増えるよう試みを行う。</p>
12	「なわとび」による新たなスポーツ文化の醸成	愛媛県なわとび協会	継続 (2年目)	<p>低学年から高学年まで気軽に取り組むことができ、個人競技も団体競技も可能な「なわとび」に着目し、普及活動に取り組むことにより、青少年の健全育成とスポーツ文化の継承を図るとともに、大洲市を愛媛のなわとびの中心として、県内外に活動を発信し地域活性化を図る。</p> <p>また、スポーツを通じて地域の人々が交流を深めることで、住民相互の新たな連携を促進するとともに、地域の一体感や活力の醸成を図る。</p> <p>引き続き「大洲なわとびクラブ」を設立し、学校や地域を超えた交流を図るとともに、大洲の子どもの体力・気力・コミュニケーション能力の向上を目指す。</p> <p>また、「第3回愛媛県小学生なわとび選手権大会in大洲」を開催し、学校や地域を超えた交流の機会とする。</p>	981,000	981,000	<p>大洲なわとびクラブでは、昨年度以上に保護者や地域の方の協力を得ることができ、普段の練習や合宿などが昨年度よりも充実したものとなった。</p> <p>また、大洲なわとびクラブの3名が愛知県名古屋市で開催された「第2回全国なわとびスピードコンテスト」に出場した。</p> <p>「第3回愛媛県小学生なわとび選手権大会」では、過去最高の471名のエントリーがあった。今回から「ファミリー部門」を新設し、親子や家族の絆を深めるために「親子とび」や「ダブルタッチ」の種目を追加した。全国大会に向けて親子や家族で練習することでコミュニケーションを図ることができたという声をたくさんいただいた。</p>	<p>大洲なわとびクラブでは市内5校から38名の小学生が所属し、週に1回の活動を楽しんだ。なわとびを通じて体力や技能の向上はもちろんのこと、他校の児童との交流や異学年交流を図ることができ、コミュニケーション能力が向上した。また、練習や合宿なども保護者や地域の方の協力を得ることができた。</p> <p>第3回愛媛県小学生なわとび選手権大会や合宿などを開催することで、県内各地からたくさんの方が大洲市に足を運びきっかけとなった。また、大会に向けて地域の方やこれまで大会を経験した中学生の協力を得ることで大会を無事に終えることができた。大洲市全体で大会を運営する一体感が生まれつつある。</p>	<p>愛媛県小学生なわとび選手権大会は年々参加者数が増え、競技力も向上している。大会では大洲市内の子どもの活躍が目立っている。今後はさらに競技力を向上させ、大洲市から日本一や世界一の選手を育成できるようにしたい。</p> <p>現在は小学生を中心になわとび普及活動を行っているが、未就学児や大人も楽しめるなわとび活動を行っていききたい。そして、「なわとび」を通じて、全ての方々の体力向上と健康維持に貢献できるようしていきたい。</p>
13	おおずプレミアムマルシェ	おおずプレミアムマルシェ出店者協議会	継続 (2年目)	<p>近年、産直市によって地産地消の促進は図られていると感じるが、産直市への生産者の個人の出品は規格外のものが前提であり、本来の正規品以外のものがほとんどである。産直市の出品により農家の収入はアップしているが、反面、規格外の野菜が大洲の野菜と思われているのも事実である。このマルシェを通じて、トップブランドの産品に触れる機会を定期的に作り、消費者が直接対面で話しながら商品を手渡し、苦勞や思いに触れることによって、地域産品や愛着や敬意へとつなげていく。また、単なるイベントの場ではなく、BtoBビジネスの商談等、新規ビジネスの場として活用する。さらに観光拠点である肱北・肱南地区に地元産の産品を一同に集めることで一層の活性化を図る。</p>	2,000,000	2,000,000	<p>こだわりの農産物やそれらの加工品を厳選し、大洲の観光の中心でもある肱北地区で、ヨーロッパ朝市のような雰囲気の中、出展者が消費者に直接販売を行う。1回につき15ブース程度、4回実施の予定であったが、1回目は13店舗、2回目は10店舗、3回目は13店舗、4回目は16店舗での開催となった。</p> <p>開催場所については、肱川橋下 川下側の遊歩道では、平成29年8月6日、平成30年2月25日、平成30年3月18日の3回、大洲農業高等学校 農業祭にて、平成29年11月12日に1回開催をした。</p>	<p>4回の開催で800人以上の集客があり、来場されたお客様がマルシェでの買物だけでなく、周辺の商店街や観光スポットにも足を運ぶなど、観光面での相乗効果がでてきている。</p> <p>また、市外からの観光客の来場が増え、地元の農産品のPRにもなっている。</p> <p>出店者についても、回数を重ねることで、地震が販売戦略をたてて販売をする姿が見られるようになり、毎回売上額も平均3万円以上と上がってきている。</p> <p>出店者同士の横のつながりもでき、マルシェ限定のコラボ商品や新規商品も生まれてきている。</p>	<p>2年目の実施では、認知度を上げることを重点に実施した。結果的には、認知度は上がり、レポート顧客の獲得にも繋がった。</p> <p>イベントのコンセプトや雰囲気についても定着し、定期開催の要望も出てきているので、次年度についてはリース対応してきた資材を購入し、独立開催できるよう準備していく。</p> <p>また、イベントがマンネリ化しないよう、ワークショップなどの仕掛けを案が絵ながらイベント作りをしていく。</p> <p>荒天時の対応や観光客向けの宅配対応なども次年度はしっかり改善し、取り組んでいきたい。</p>
14	河辺幼稚園、小学校、中学校を中心とした地域活性化事業(河辺地区地域活性化事業)	河辺の未来を考える会	継続 (2年目)	<p>河辺地区は、大洲市内において著しく少子高齢化が進行している地域であり、地域行事などの存続も危ぶまれる状態である。今後も地域機能を保持していくためには、UターンやIターンなど問わず、外部からの移住による人口増が必要である。</p> <p>外部からの移住を促進するため、子育て世代などの若年層の移住を目指し、幼稚園、小学校、中学校と連携した魅力的な学校づくり(コミュニティスクール)の実現とSNSなどを使い、外部へ河辺の魅力の積極的な発信を行う。</p>	467,000	450,000	<p>地元住民を対象として、講師を招いた勉強会+ワークショップの形式で、河辺において何ができるかを話し合った。具体的には、勉強会は愛大の先生や先進地の方を講師として招き、実際に学校を中心とした地域おこしを実施している事例の紹介や移住定住促進の方法などを話していただいた。</p> <p>その内容を参考に河辺地区において何ができるかを、ワークショップ形式で意見を出し合った。また、移住定住の促進のために河辺町の紹介パンフを作成し、県東京事務所及び市内観光施設に配布した。</p> <p>適宜河辺の情報をSNSで発信した。</p>	<p>住民のこれまでの意識は「このままではいけないが、どうしたらよいか分からない」といった状況であった。本事業にて実施した2度の勉強会+ワークショップによって、先進地などの具体例を聞き、現実問題として、河辺で何ができるかを話し合い、意見交換ができ、参加した住民にとって学校のことや移住定住の必要性などが現実的な問題と捉えられるようになった。</p> <p>具体的に活動を進めるため、来年度は、これまで各自治会やそれぞれのグループ、会で個々に話し合っていた河辺地区の問題やイベントなどのことを、今後は代表者が一同に集まり、一緒に考え、対応していくための代表者会を組織することとなった。</p>	<p>次年度以降は、移住定住の促進、地域の活性化にむけ、実際に河辺で何が取り組めるのかを住民主体で話し合うために、自治会や学校の先生、老人会、保護者などの各団体の長が集まる代表者会議を組織する。その会において、学校の今後や河辺のイベントの実施方法などを話し合う。例えば、現状で学校と地域が共同で行っている運動会については、来年度はどのような内容で行うのか、また今実施しているイベントをよりよくしていくためにはどうすればよいのか、また移住定住を進めるために必要なこと、できることは何かなどを河辺地区全体で話し合う。また、河辺の未来を考える会でも、移住定住を促進するために、引き続き特産品の開発、販売やグリーンツーリズムの実施による交流人口の増加などを目標して各種活動を行う。</p>
15	新たな地域農産物の推進による地域活性化事業	河辺の未来を考える会	新規	<p>河辺地域に多く自生する「ていれぎ」を湧き水の近くに育苗施設を作り、苗を育てて地域の新たな農産物として振興を図る。</p> <p>ていれぎ栽培は、作業負担も少なく耕作放棄地の解消にもつながる。</p>	1,215,000	1,194,000	<p>河辺町川上地区にある湧き水の近くに「ていれぎ」の育苗施設を整備し、地域新たな農産物として振興を図った。</p> <p>木造平屋建てトタン葺き33.7㎡</p> <p>自生している「ていれぎ」より種の採取、農業試験場からいただいた苗の育苗、栽培施設の整備、自生している「ていれぎ」をポット苗へ移植</p>	<p>施設整備は遅れたものの、本格的な栽培に向けて、愛媛大学の先生からアドバイスを受け、栽培方法(陸上もしくは水中)、苗の増やし方(挿し木)などの実証を行うことができた。</p> <p>また、河辺地区において自生している箇所をいくつか発見することができ、施設による苗の栽培ができなかった分の苗の補充も可能である。</p> <p>これによって次年度以降の施設を使った苗の栽培はより効果的に実施できると考えられる。また、河辺の未来を考える会の別事業では、ていれぎを使ったレシピもプロの料理人から提供され、東京で行った試食会でも好評であったことから、地域の新たな農産物としての振興や外部へのアピールも進んでいる。</p>	<p>次年度以降は、今年度得られた効果的な育苗方法を踏まえて、整備された施設において苗の育苗を行う。育てられた苗については、河辺町内の希望者に栽培方法とともに配布し、栽培量を増やす。また、栽培されたていれぎを販売するために、道後のホテルを始め、首都圏などへも販路の開拓を行う。さらに、町内の宿泊施設などにおいて、ていれぎを使ったメニューを提供するなどし、その知名度をあげ、新たな農家の収入源となることを目指す。</p>

平成29年度大洲市ががんばるひと応援事業の実績について

(単位:円)

整理番号	事業名	団体名	年数	事業概要	交付決定額	実績額	事業の実績	事業の効果	今後の取組方針
16	「いろいろ」子育て支援事業	特定非営利活動法人造形アートステージ・ケルバルネージュ	新規	造形アートを利用して大洲市内の保育所や幼稚園でアート教室を開催し、子育て支援に取り組む。少しでも多くの子どもたちが想像力を養い、創造する力を身につけ、心豊かに成長している環境づくりのため、年2回ワークショップを開催する。	1,422,000	1,413,000	造形アート教室では、保育所(11か所)218名・幼稚園(1か所)7名、12か所で計225名の子どもたち、造形体験ワークショップでは、第1回27組66名・第2回23組55名、計50組121名の保護者と子どもたちが参加した。全体の事業として、346名の皆さん一人ひとりとお話し、制作できた。また、世界の一流の画材を皆さんに見て頂いた。 造形アート教室に関しては、子どもたちから「明日もまた来て！」の声を聞いたり、園の門まで見送りに来てくれたりした。造形体験ワークショップにおいても、初めてだった方がほとんどであり、「親子での新しい日曜日の過ごし方が見つかった」と声をかけてもらった。次回の参加を希望される方も、いらっしやった。	造形アート教室・造形体験ワークショップは、人の感性、感受性、感じる心、想像する力を育てる。これらは、自分以外の人の気持ちを思いやる力、自分の気持ちを周囲へ表現する力、そのものである。 そういった力を育てるきっかけを子どもたちに与えることで、彼らが次世代に、彼らなりの方法で、この力を伝え続けることが、目標である。	対象年齢を3歳～小学校2年生までにしてはいたが、0歳児をもつ保護者からの要望もあり、0歳～小学生までに広げていく。保護者とともに造形アートと触れ合う場を設けることで、事業の規模を発展的拡大し、地域に密着したワークショップを実施する。 地域住民・保護者にも『想像力はやさしい気持ち』ということ地域社会全体に周知してもらいたいと考えている。このことにより、子どもたちの成長を長く見つめ、内容を進展することで、『想像力で創造する力』を身につけ、向上させる。 また、ボランティアで中学生・高校生が私たちの想像以上に集まってくれたため、中高生とも一緒に考え、企画している。
17	長浜まちなみ水族館	長浜まちづくり協議会	新規	長高水族館に訪れる約500人のお客さんを町なか周遊していただくため、また、「水族館の町」の復活に向け、まちづくりの一步として「地域が一体となったまちづくり」「水族館を活かしたまちづくり」を実践するため、以前行っていた「長浜まちなみ水族館」を復活させる。 町の鮮魚店のいけすを利用し、スタンプラリーを実施したり、長浜で第3土曜日に実施しているイベント事業と連携することで、長浜の良いところを見ていただき、商店街の賑わいとなり、お土産の販売や商店街の売上向上につなげる。	270,000	203,000	スタンプラリー参加者の多くは、松山市、西予市、内子町等周辺地域から長高水族館に来場した観光客が参加。参加した客層は圧倒的にファミリー層で年齢層も幼児者・小学校低学年であった。事業の初年度であったが、マスコミにも取り上げられた関係で3月はスタンプラリー参加者は88人、長高水族館には800人の来場者があり最高記録を更新するなど相乗効果があった。 ただ、参加者はスタンプラリーが目的で鮮魚店で買い物をする顧客は皆無であり経済的効果は無かったが、地域の良さを知ってもらう機会・地域の賑わいづくりには貢献した。	長浜の鮮魚店では、イクスに海水をポンプにより直接汲み上げて魚を生かしている、それによっておいしい魚を提供できていることやイクスの塩分濃度によって生息できる魚が違うことなどを知ってもらうことができた。 鮮魚店や料理店など、日頃まちづくりに関わっていない方たちをまちなみ水族館に加えることができたことが次に繋がる。 長高水族館に訪れている観光客をスタンプラリー実施したことにより、商店街へ向けて誘導することができ滞在時間が伸びた。 テレビ、新聞等マスコミにも取り上げられ長浜まちなみ水族館の話題性、注目度が高まり、地域の賑わいづくり・振舞いづくりにつながった。 幼児・小学校低学年に地域資源を知るきっかけと環境教育にもむすびづく。	各鮮魚店の生簀を活用して、釣り堀大会の開催。 長浜まちなみ水族館の拡充(JR長浜駅) 長浜の特色を備えたお土産の開発 ガイドの必要性・他のイベントとの連携(赤橋自由空間・漁師あらせ市) スタンプラリー台紙の有効期限の見直し。 スタンプラリー参加者の中から、抽選で3千～5千円程度の食事券をプレゼント。
18	大洲・長浜を舞台にした映画制作事業	大洲長浜映画制作委員会	新規	長浜には世界に通用する魅力ある素材がたくさんあるが、全国的には知名度が低い。地域の宝を取り入れた映画を制作し、その中で地域の魅力を発信していく。 映画「食堂ゆすかわ」の舞台となった西予市城川町遊子川を参考に、長浜地区が一致団結して住民参加型の映画制作に取り組む。映画を通じて、長浜独自のアピールを行う。 完成した映画は、出張映画試写会に合わせて特産品販売を行うなど観光PRに利用する。	1,980,000	1,980,000	映画制作にあたり多くの方に協力いただいた。特に地元の方には、映画制作に関わるのは初めてのため、最初は恥ずかしそうに参加されていたが、最終的には楽しかったというご意見が多数であった。 ・長浜地区住民もキャスト・スタッフとして多数参加。地元150人以上のエキストラ参加 ・試写会来場者数100人 ・主題歌 ジャパハリネット「PEOPLE×PEOPLE」	地域住民の方に映画制作に関わってもらうことで、地域の魅力を再発見いただき、まちづくりに参加する気運を少し高めることができたと思う。 今回、映画制作を進める中で、新聞やテレビなど様々な報道機関に取り上げてもらうことができ、映画PRだけでなく地域のPRにも繋がった。	今後、「大洲長浜映画制作委員会」から「大洲長浜映画普及委員会(仮)」に名称を変更し、映画を普及するために市内外で様々な事業を実施していく。 地道な普及活動を実施し、長く地元へ愛される映画にしていく。
19	おおなる元気化プロジェクト	NPO法人 おおなる工房	新規	大成地区において地域の空き家(古民家=旧・醤油製造販売の商家/昭和14年築)を活用し、“地域元気化”の拠点とするため、施設整備を行う。 肱川中流域の特性を活かした「食べる」「遊ぶ」「学ぶ」をテーマとした事業を行い、首都圏を含む都市部からの集客を図る。 また、事業を進める中で、都市と大成地区との多重居住等についての可能性を探り、大成地区に拠点施設を中心に大成全体をフィールドとした多様なソフト事業を企画し、これまでとは違った観点からの地域活性化を進める。	2,000,000	2,000,000	■ハード事業(全体の中核施設としての古民家整備) 築78年の木造2階建て家屋について、以下の改修を行った(すべて1階部分/全体で約37㎡)。 土間入口:ガラス戸・敷居レールの改修、土間脇の帳場(1.6㎡):床板をコンクリート(ダンテフロア)に改修、玄関の上がり間(3.3㎡):畳の取り替え、土間の上がり間(3.3㎡):畳をフローリングに改修、1階の8畳間(13.2㎡):畳をフローリングに改修、襖の取り替え、床の間(1.6㎡):畳を取り替え、天井にダウンライト設置、トイレに通じる廊下(約12.4㎡):床下・床材の取り替え、トイレ(2室:1.6㎡):内装、便器の取り替え、照明器具の取り替え:土間、1階8畳間、門灯、分電盤の取り替え:20Aから50A ■ソフト事業 1)古民家講座(平成29年6月18日開催/参加者約60人) 講師に、古民家を改修して地域活性化を推進する南予地区の事例を聞き、古民家(旧大石邸)に移動して、改修前の見学会を実施。 2)「アユの瀬張り」漁体感講座(平成29年11月12日/参加者16人) アユ漁をしている地元住民を講師に、肱川で瀬張り漁を見学し、投げ網を体験。アユ料理を作って試食。全国の伝統漁について解説。	拠点となる古民家「旧大石邸」の改修・整備作業を通して、地元住民が同古民家に関心を示し、活用の可能性を感じることができた。 年間を通して実施した多様なソフト事業(各種講座、「カフェおおなる」「スコールおおなる」など)には、地元外から多数の来訪者(カフェ来場者の半数は地元外)があり、地区外からの注目を集めることができた。 それらの結果、地元住民の意識を「未来」へと向かわせることに貢献できている。	ハード整備を行うとともに、肱川や地元フィールドなどを活用したソフト事業を「カフェ」と「スコール」のかたちで行う。 将来的に「古民家レストラン」を開業し、地域内外の人とともに飲食を楽しみながら、知的な時間を共有する場としていきたい。 この建物を拠点に、大川地域全体の活性化を目指している。
20	Localから老化を変えていく～太鼓と踊りで人を元気に幸せに！～	みゆう	新規	高齢者がいきいきと暮らせるように健康寿命を延ばし、良好な精神衛生状態を保持するため、健康体操・舞踊及び和太鼓演奏を活用した高齢者向けの長寿プログラムを開発し、老化おいでん教室(老化おいでん=老化が来ない・老化しないの意)を開催する。 体験型施設慰問を実施し、公民館の学級などを活用し、全市的に普及させていく。	1,028,000	1,028,000	7月から松山での健康体操・舞踊と和太鼓演奏の講習会を受講(牛山・澤田)。それをもとにして10月より大洲市内の介護施設への訪問を開始した。「太鼓と踊りを活用した健康プログラム」の実施を行った。(参加者約100名)太鼓や踊りの披露だけでなく、利用者の参加型で行う慰問活動は今までになく画期的だった、利用者の笑顔や参加への積極的な意欲から効果を感じたとの反応をいただき、単発の体験でなく今後の継続的な活動を望む声が多く聞かれた。 「体験型慰問」という形態で、演奏演舞も含め、実際に太鼓を叩いたり体を動かしていただくことにより、受け身にとどまらない効果を実感していただき、太鼓と踊りの新しい可能性を見いだせる活動となった。	施設慰問では、「太鼓や踊りの披露だけではなく利用者の参加型で行う慰問活動は今までになく画期的だった」「利用者の笑顔や参加への意欲から目に見える効果を感じた」との反応をいただき、単発ではなく継続的な活動を望む声が多く聞かれた。 「体験型慰問」という形態で実際に太鼓を叩いたり音楽に合わせて体を動かしたりすることにより、心身の健康増進への受け身にとどまらない効果を実感していただくことができた。 また、高齢者施設での活動として、今まで鑑賞するものというイメージが強かった和太鼓や舞踊の分野において、新しい可能性を見いだせる活動となった。	ケーブルテレビでの番組制作とその定期的な放送。太鼓と踊りの健康効果と当団体の活動周知を目的とする。 施設関係者を主な対象に、大洲に講師を招いての講演会の実施。太鼓や踊りのもたらす心身への健康効果の周知を目的とする。 補助期間終了後は市内で継続的に「太鼓と踊りを活用した健康プログラム」を開催することを目標としている。具体的には市内の介護施設、老人施設等と年間契約を締結し、定期的な慰問の実施及び公民館高齢者学級への出張講座を実施する。

平成29年度大洲市がんばるひと応援事業の実績について

(単位:円)

整理番号	事業名	団体名	年数	事業概要	交付決定額	実績額	事業の実績	事業の効果	今後の取組方針
21	如法寺で坐禅体験してみませんか事業	The Zen 如法寺もりあげ隊	新規	国の重要文化財でもある如法寺の禅堂での座禅や茶礼などの修行体験や「寺子屋講座」を行い、年4回のイベントを行うことで地域内外の人との交流が生まれ、大洲の観光活性化を図る。	688,000	688,000	坐禅・茶礼などの修行体験に加え、「寺子屋講座」1年目として、講師によるZEN呼吸法講座、文化講座、歴史探訪などを行い伝統的な日本文化を肌で感じてもらえるよう活動を行った。 具体的には4回のイベントを開催。テレビ番組や雑誌の取材を受けたり新聞に掲載されたり、活動の内容と様子はメディアからも注目していただいた。大洲市内外はもとより、九州や関西地区からの参加もあり、終了後の参加者アンケートにおいては「満足した」「又参加したい」などの感想をいただいた。如法寺関係者の方々(和尚、檀家)からも継続を望む声を頂戴した。 また、当団体のフェイスブック、ホームページの充実にも取り組み、インターネット媒体を利用した集客と情報発信の効果も大いに実感することが出来た。	参加者には「いやし」を提供することができ、大洲の貴重な文化遺産を知ることができた。大洲市民であれば、地元にある文化財を深く知ることで、地元をより愛する「郷土愛」が深まった。 このイベントを知った大洲市民は地元に対する誇りを持ち、大洲市民であれば愛着を持って頂けたと思う。参加者だけにとどまらず、人々が地域資源を確認することで、将来、大洲を定住の地に選ぶとすれば、地域の発展にもつながったものと思う。	イベント告知の拡散方法の多様化 コンサートや精進料理等、坐禅とタイアップしたイベントの開催 参加者の為の駐車場の確保と、会場までの送迎車の手配 期間限定のカフェなど定期的な寺活の運営なども視野に入れ、より多くの方に参加していただける魅力的なイベントを継続する。 地域の企業や他団体とも連携を図り、如法寺を拠点に人と経済において良い循環を生み、地域活性化の助けとなりながら自主運営をしていける組織づくりを目指す。
22	大洲クーポンブックまち歩き食めぐり人やすみ帳	笑人隊	新規	「えひめいやしの南予博」において実施された「大洲クーポンブック まち歩き食めぐり人やすみ帖」を新規店舗の拡充や本自体の魅力アップを図り3000部を作成し、中予方面や近隣市町のコンビニや書店で販売する。 また、参画店舗でも販売して、より多くの市民の方にもクーポンブックの存在を知っていただき、商店会の活性化を図る。	1,390,000	1,323,000	「えひめいやしの南予博」で作成したクーポンブックを基に、昨年度のアンケート等に書かれた割引率のアップやプレミアム感を高くするなどの点を改善しながら、新規店舗の拡充を図り、市外からの来客のみならず、市民にも易しいクーポンブックを作成した。(3,000冊作成) 継続して実施することで、参画店舗自らが主導でクーポンブックを作成する意欲を持ち、参画店舗同士の競争が生まれ、販売力の向上につながり、魅力のある店舗においては、市外からのリピーターもでき活性化できた。(参画店舗:61店舗うち11店舗新規) 販売総数 1,423冊	購入された方が新しい店を発見し、入店して頂いた。参画店舗の接客、商品の向上ができた。	今回は、8月20日から翌年2月28日までの期間でしたが、もう少し早い5月、6月からの発売にしたいので、早い時期の取り組みをする。
23	旧正山小学校を活用した正山地域活性化事業	正山さんだせ隊	新規	正山地域において、旧小学校・地域資源の活用を協議・検討を重ねた成果として、正山地域の有志で「正山さんだせ隊」を結成し、旧小学校を活用して地域活性化の拠点とする。 拠点を「集える場、文化・芸術に親しむ場」として、「喫茶、カルチャー教室、ギャラリー」を開設し、正山の魅力再発見、交流人口の増加、地域特産品の販売を行い活性化を図る。	649,000	627,000	旧正山小学校の利活用による正山地域の活性化事業を計画に基づき取り組み、自治会・老人クラブ等のご協力のもと概ね実施できた。 旧正山小学校内での、「喫茶正山」・「ギャラリー京の森」・カルチャー教室の開催では、のべ1,040名(正山地域外535名)以上の来場者があり、正山地域内外の皆さんに「集える場」としてご利用いただいた。 来場者の声としては、「校舎に入るのはじめて、木造校舎いいですね。廃校はもったいないですね。」「廃校を利用してこんな事してたんですね。ずうっと続けて下さい。」「正山地域にこんな技術・特技を持った人がいたんですね。正山再発見です。」「ゲートボールの後、話せる場所があって楽しい。」などの声をいただいた。 また、正山地域で活動されているグループとの協働活動として、軽トラ市チラン作成・そばの活用などで一歩前進した活動になった。	旧正山小学校が正山地域内外の皆さんの集い(交流)の場となった。また、多様な文化との触れ合える場となった。	平成30年度は、12月頃より旧正山小学校が肱川中学校の代替校舎となり、施設が使えなくなるので活動の拠点及び活動内容の再構築を検討中。
24	おんな鉄砲隊(仮称)結成事業	大洲藩鉄砲隊	新規	大洲藩鉄砲隊は、大洲城天守閣での公開演武を実施しているが、演武を継続していく上で、隊員の仕事の都合等の理由により、一定数の隊員を確保することが困難になっている。 全国的にも事例が少ない女性隊員のみで火縄銃演武を行う「おんな鉄砲隊(仮称)」を創設し、より一層の観光PR効果の向上と隊員不足問題の解消を同時に図る。	861,000	861,000	SNSやホームページ等により、広く女性隊員を募集した結果、市内・市外からそれぞれ1名の新規女性隊員を増員することができた。装備品も一通り揃えることができ、女性隊発足に向けての基盤も整った。 新規入隊のメンバーは、当団体の活動にとっても興味をもっており、今後継続して活動に取り組んでいく熱意も感じるため、今後女性隊員の中核メンバーになってもらうよう育成していきたい。	事業実施により、人材不足となっていた女性隊員が2名増員し、装備品も購入できたため女性隊として活動できる体制が整った。 また、合わせて男性隊員も2名増員することができたため、毎月の定期演武にも人員を確保できるようになった。 大洲城の観光客も前年より増加していることから、定期演武を積み重ねていくことが、その要因の一つとなっていると思われる。	当初計画していた、女性隊のお披露目を実施できなかったため、来年度速やかに実施できるよう取り組んでいきたい。(NHKから実施の際は、取材したいとの依頼あり) また、大洲藩2代藩主加藤泰興が召し抱えた堺の鉄砲鍛冶「井上関右衛門」との歴史を保存・伝承していくことが当団体の目的の一つであるが、今年度、関西大学の調査研究により、井上家が藩の庇護を受けながら名実ともに日本一の鉄砲鍛冶として江戸時代中期から後期にかけて興隆していった事実が新たに分かったことから、今後女性隊の活動を通して、大洲の歴史をより多くの人に広めていきたい。
25	体験学習による子どもの健全育成と地域活性化事業	煙友会	新規	昔と比べ生活体験や自然体験の機会が極端に少なくなり、創造力や生活の知恵が乏しくなっていると言われる中で、炭焼き体験は、子どもたちの山林に対する意識を育み、自然の恵みや人間の知恵を身を持って知ることができる良い機会であり、地元の子どもたちにとって大変有意義なものであると感じている。 市内の小中学校からの炭焼き体験やうどんづくり体験希望者を受け入れできる環境を整え、これらの体験学習を通して、自然に対する関心を深め心豊かな子どもたちを育むとともに、森林資源の有効活用により森林整備を図る。 また、グリーンツーリズムのノウハウを習得し、平野地区の体験メニューとして確立し地域の活性化を図る。	1,665,000	1,665,000	炭焼き体験やうどんづくり体験を通して、自然に対する関心を深め、心豊かな子どもたちを育むと共に、平野地区の活性化に貢献できた。	[活動による効果] 地域が一体となって、地元小中学生を中心に受入れを行い、世代間交流が図られた。 [施設整備による効果] 施設整備をしたことで、利用者が増加した。 天候による心配が解消された。土間の草が生えなくなった。 飲料水による食中毒の心配が解消された。 天候等による体験学習の日程変更が無くなった。 サロン事業等からも体験希望が増えた。	炭焼き体験により子どもたちに山林や自然に対する意識を高め、自然の恵みや人間の知恵を再認識してもらうことで健全育成を図り、また地域住民と触れ合うことで子どもたちの郷土愛を育むような事業を展開していくため、地域の住民と相談しながら、自立した事業実施ができるようにゆっくり無理なく続けたい。また、現在の子どもの現状に配慮したトイレ等の施設整備を実施したい。
合 計					28,408,000	28,127,000			